

平成27年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 分かる授業を実践することによって、基礎学力の定着と論理的・批判的思考力の育成を図り、キャリア教育の実践と3年間の進路指導態勢の充実を図り、進路志望100%実現を目指す。 ・ICTや学びなおしの効果的な活用と評価及び言語活動の充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・学習規律を遵守させる指導を徹底し、学習習慣の確立を組織的に指導する。	シラバスに学び直しの項目を入れ、それに沿った授業を行う。また、学び直し教材を活用し、適切に評価し、学習意欲を喚起することによって基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	学び直しのための教材を作成したり、活用した教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査 (H27.12実施) A(47.6)+B(47.6)=95.2% <u>達成度：A</u>	前回(7月)の調査ではA+B=90.4%であった。朝学習では「マナトレ」を実施し、国語・数学・英語の基礎学力の向上や、これまでの学習の躓きを発見・改善するために実施している。授業においても各教科で学びなおしのプリントなど作成、活用することで基礎学力の向上に努めている。来年度も継続して進めていきたい。
	書画カメラやパソコンなどのICTを活用し、映像や視覚的な効果を取り入れ、学習意欲を喚起し、授業改善を図る。	各教科 教務課	職員がICTを年間に活用した回数が A：70回 以上 B：50回 以上 C：40回 以上 D：40回 未満 ICTの活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	教職員調査 (H27.12実施) 活用回数の平均は 53.3回 <u>達成度：B</u> 生徒調査 (H27.12実施) A+B=55.0% <u>達成度：D</u>	職員のICTの活用回数は平均が53.3回となっている。使用回数の多い職員と少ない職員の差が大きいのが現状である。数年前に比べるとプロジェクターの数も増え、活用しやすい環境が整いつつあるので、来年度以降さらに増えるように努めたい。また、研究授業では常にICTを用いて授業を行っており、教員間の研修も進んできている。 ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング型の授業で、生徒が思考する時間をつくり学習意欲を高め、授業への集中などで学力の向上につなげていきたい。 生徒調査では前回 A+B=56.7%でやや減少している。ICTの活用のしかたも含め、さらに授業改善に努めていきたい。
	各教室に「学びの4か条」の掲示や学習規律の確立に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	学習規律の遵守を指導している教員と学習規律を守っている生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査 A(38.3)+B(57.1)=95.4% <u>達成度：A</u> 生徒調査 A(31.4)+B(49.6)=81.0% <u>達成度：B</u>	前回(7月)の調査では86.0%であった。授業中に担当を決めて教員が教室を巡回するなどしている。ほとんどの教員が学習規律の遵守に努めており、授業の様子も落ち着いてきている。今後も一層生徒への働きかけを行い、指導していく。 生徒調査では、肯定的評価が81.0%だった。
	「聞く」「話す」場面や「考え」「発表する」などの機会を設け、主体的に授業に参加させ、分かる授業づくりを実践し、基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	言語活動の場面を設けている教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査 (H27.12実施) A(45.9)+B(39.1)=95.0% <u>達成度：A</u>	前回(7月)の調査では84.2%であり、約10ポイント上がっている。アクティブ・ラーニングなどの活動を取り入れ、生徒が主体的に活動する場面を増やすようにしており、その結果であると思われる。思考力・判断力・表現力を身につけさせるため言語活動を充実させ、今後も授業改善に取り組み学力の定着を図っていく。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。	各教科 教務課 各学年	家庭学習時間が平日 60 分以上、休日 120 分以上の生徒の割合が A : 70% 以上 B : 60% 以上 C : 50% 以上 D : 50% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) 平日 60 分以上 45.8% 休日 120 分以上 20.9% 達成度 : D	前回(7月)の調査では平日 60 分以上、休日 120 分以上の割合が、平日 35.2%で休日は 15.1%で、平日、休日ともに改善しているが、達成度は今回も D であった。今後も家庭学習時間調査を実施し、生徒の意識改革に努めたい。また、マナトレや学びなおしなども継続し、家庭学習時間が増えるよう取り組んでいく。
	生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指 導課 各学年	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っていると感じる生徒の割合が A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) A(30.1)+B(47.7)=77.8% 達成度 : B	1 年生は、進路ガイダンス・進路講話、企業見学・大学見学等を実施して、適切なコース選択に結びつけた。次年度の指導充実に向け「総合」「LH」の計画を十分練る必要がある。2 年生は、就職講話・インターンシップ、進路ガイダンス・先輩と語る会等を実施し、明確な志望進路を決定できるよう、進路意識の向上を図った。次年度に向けさらに早期始動を期したい。3 年生は目標の進路実現に向けて、細やかな内容で進路ガイダンスやインターンシップ等を行い、夏休み以降 3 学期にわたり徹底した面接練習、作文・筆記試験対策等を継続的に実施した。次年度も指導の徹底を念頭に細やかな対応をしたい。
	個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、ホーム担任が個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指 導課 各学年	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合が A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) A(27.8)+B(44.3)=72.1% 達成度 : B H27.7 実施時 68.3%	1 学期の面談では、現在の学校生活における状況や学校生活への適応を確認し、各学年の進路目標を提示した。2 学期以降、1 年生はコース選択、2 年生はより具体的な進路選択を考え、進路意識の向上を図る面談を実施した。次年度に向け、1 年は上級学校での学びや社会で働くことについての心構えをさらに涵養したい。2 年は 3 学期を 3 年 0 学期として、人数の多い就職希望者と進路指導課でも面談し、早期指導の充実を図りたい。3 年生は、データや求人票等を基にした効果的な面談を実施して、生徒の資質・適性に基づく進路実現を図った。進路指導課として、次年度も面談・面接練習・学力指導等細やかな対応に努めたい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒の進路志望 100% 実現を目指す。	進路指導課 各学年	生徒の進路志望の実現率が A：就職・進学の実現率 100% 国公立大合格者 2 名以上 B：就職・進学の実現率 100% 国公立大合格者 1 名 C：就職・進学の実現率 100% 国公立大合格者なし D：就職・進学の実現率 100%未 満 国公立大合格者なし	就職・進学の実現率 100% 国公立大合格者 1 名 達成度：B	3 年生の進路決定人数について 進学：29 名（希望者全員決定） 就職：30 名（希望者全員決定） 国公立大合格者 石川県立大学 1 名 公務員合格者 女性警察官 1 名
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用し、「分かる授業」を実践し、アクティブ・ラーニングの充実を図った授業を展開してもらいたい。 学び直し教材を効果的に活用して予習・復習による家庭学習も定着してきている、継続してより一層学習習慣の徹底を図ってもらいたい。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ICT の効果的な活用とアクティブ・ラーニングの本校のスタイルを確立し、主体性や協働する態度を身につけられるよう、学校全体で取り組みを推進していきたい。 授業だけではなく、朝学習や土曜補習等で学び直し教材を効果的に活用し、学習習慣確立に向けての指導の徹底を図り、基礎学力の定着を図る。 				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、挨拶の励行と社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付けさせ、自ら考え、行動する自主自律の精神を持った社会人の資質を培う。	登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ(端正な制服の着こなしと頭髪)を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	「生徒同士や職員、外部からの来客や地域の方々に対し自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) (7月) (12月) ・来校者への挨拶 94.9% → 89.0% ・大きな声の挨拶 66.9% → 68.0% ・足を止めて挨拶 81.0% → 94.0% ・服装・頭髪 88.7% → 84.8% 達成度：B	「外部の来校者に対してあいさつができてい」と回答した生徒の割合は89.0%で、5.9ポイントダウンした。前半は、就職・進学指導を学校全体で強く行っていたため、成果が現れていたが、後半の取組に工夫が求められる。「大きな声であいさつができてい」と回答した生徒の割合は68.0%で、前期とほぼ同じ結果であった。「足を止めて挨拶をする」と回答した生徒の割合が94.0%で大幅な向上が見られた。 「服装・頭髪など高校生らしい身なりをしてい」と回答した割合は84.8%である。 声を出して挨拶することに課題があるため、授業や部活での終始の挨拶や名前を呼ばれたら大きな声で返事をするなど、教育活動全体を通して声を出す活動を大切にしていきたい。
	全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の遅刻ゼロ日数を生徒玄関に掲示する ・個別面談等を行い、個々の生徒の自覚を高める。	生徒指導課 各学年	遅刻ゼロ日数指標 1学年 80% (155日) 2学年 85% (165日) 3学年 85% (145日) 遅刻ゼロ日数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：全学年が70% 以上 C：全学年が60% 以上 D：全学年が60% 未満	遅刻ゼロ日数(159日) 1学年 74.8%(119日) 2学年 72.3%(115日) 3学年 71.0%(113日) 平均 72.7% 達成度：B H26 全学年の遅刻ゼロ日数平均：60.1%	遅刻ゼロ日数は、 H27.7月(69日) H28.1月(159日) 1学年 88.4%(61日) 74.8%(119日) 2学年 81.1%(56日) 72.3%(115日) 3学年 79.7%(55日) 71.0%(113日) 全学年の遅刻ゼロ日数平均が60.1%(H26)から72.7%(H27)で12.6ポイントの改善が見られた。今年度は、夏休み明け後から遅刻者が増加している傾向にあった。やや固定している遅刻者に対して粘り強く指導を続けていく必要があるため、個人面談を実施し、保護者の協力を得ながら遅刻改善ができるよう指導を続ける必要がある。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	悩みを持つ個々の生徒に応じたきめ細かな面談を行い、ホーム担任・教育相談担当、スクールカウンセラー、地域サポート教員等との連携をより密にすることで、解決に向けた効果的な支援を行う。	厚生課 各学年	生徒の悩みに先生が相談に応じてくれていると答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) A(22.2)+B(39.8)=62% 達成度：C	日頃より気になる生徒の情報共有やホーム担任による面談を中心に、生活習慣実態調査(年7回)による悩み調査、面談週間(11月2回実施、教科担当、部顧問等が担当)等を実施し、早期対応に努めた。しかし、「学校は学校生活に関する悩みに対応してくれている」と回答した生徒の割合は62%(7月比-4ポイント)で現状改善には至っていない。また、「生徒の学校生活に関する悩みに対応している」と回答した教職員の割合は95%と対応への認識には大きな差がある。次年度は、1,2学期に1回ずつ面談週間を設け、ホーム担任、教育相談、生徒指導、スクールカウンセラー、部顧問等が連携し個々のアンケート結果に基づくなどにより一層きめ細かく面談を行い、支援を継続することで悩み対応の満足度を高めたい。
学校関係者評価委員会の評価	・宝達高校の取り組みでの挨拶については、生徒が自ら元気良く挨拶を交わしてくれて、非常に好感が持てる。また、地域の方からも挨拶については生徒に浸透していることを伝えてもらいたいとのメッセージがあった。生徒会によるあいさつ運動は今後も継続し、挨拶やマナーの向上を図ってもらいたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・あいさつ運動は、町交差点での「見守り隊」との合同あいさつ運動が根付いてきているので、生徒による主体的な活動を今後もサポートしていく。 ・あいさつ運動を校外外で年間等して行い、全校一体となって「あいさつが自慢の宝達高生」を目指す。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 生徒と積極的にかかわりを持ち、部活動の一層の活性化・充実を図る。	生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるよう指導する。	生徒会課 各学年	所属する係の仕事を理解し、自分の役割を果たせたという生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) A(22.2)+B(46.0)=68.2% 達成度：C	宝高祭前後に関して、全般にわたって指示が遅れたり徹底しなかったことが、結果的には前回(69.9%)を2ポイントほど下回ったと考えている。宝高祭の準備に関して、今一度準備日程などについて再確認し、各係の顧問との連携を円滑化し、活動がスムーズに進むように改善したい。
学校行事、生徒会活動、部活動、地域への貢献活動やボランティア活動で、生徒の自主性や参加意欲、成就感を育てるとともに、宝達高生としての母校への帰属意識や自己有用感の涵養に努め、人間性や社会性を磨く。	生徒会と連携し、清掃の大切さを呼びかけ、美化コンクールを活性化して、環境美化への意識を高める。	生徒会課 厚生課	進んで清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：100% B：90% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査 (H27.11 実施) A(33)+B(47.7)=80.7% 達成度：C	美化コンクール(2回)を実施し、環境整備委員による放送で清掃活動への自らの取り組みを呼び掛けてきたが、依然として約2割の生徒に自主性が育たなかった。(H27.7 81.1%)次年度は、環境整備委員による清掃時の呼びかけや掃除指導の機会を増やし、生徒がより清掃活動の必要性を理解し、自主的に取り組めるよう働きかけていきたい。
	部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に加入し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 厚生課	年間を通して部活動に加入して部活動を行っている生徒の割合が A：100% B：90% 以上 C：80% 以上 D：70% 未満	加入調査 (H27.12 実施) 部活動加入率 98% 達成度：B	部活動加入率は変わらず、総体以後も2年生を中心に活動状況も良好である。一方で、「部活動に、積極的に取り組み、学校生活が充実している」と回答した生徒が69%と前回より約10ポイント下がっている。今後は加入率だけでなく、活動自体について見直しを行うことで、生徒が充実感を持てる活動になるよう、顧問と連携して対策を講じたい。
	生徒会や部単位での活動を主として、宝達・敷浪駅周辺の清掃活動をはじめ、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 総務課 各学年	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：75% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査 (H27.12 実施) A(30.1)+B(36.4)=66.5% 達成度：D	前回(H27.7 71.5%)より5ポイント下がったが、5月から新たに始めた部ボランティア活動は5回を数え、参加人数も延べ220人を超えた。生徒会が行ったアンケート(H27.12 実施)では、93%の生徒が「積極的に取り組んだ」と回答し、86%の生徒が「地域貢献の実感を持てた」と回答している。部ボランティア活動を足がかりにして生徒の参加意欲を高め、地域への貢献活動にも積極的に取り組めるように、活動内容の一層の充実を図りたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事での活動で、リーダー的生徒の躍動の様子がうかがえるが、更なる飛躍を期待したい。 ・新たな取り組みの部活動単位での清掃活動、非常に評価できるが来年度も継続してもらいたい。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生体験入学」や中高交流事業を実施するに当たり、生徒が主体となり企画運営を行う。 ・ボランティア活動を推進し、通学路の全校清掃や部活単位で免田駅、宝達駅、敷浪駅の清掃活動を各部が主体的に行わせる。 				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 積極的に保護者や地域に本校の良さや成果等の情報、提案等を発信するとともに、小・中学校との連携を一層密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	学校からの配付物を保護者に渡す指導を今後とも徹底すると同時に、メール配信システムを導入し、活用することで、配付物を含めた学校情報を確実に保護者に届ける。	総務課 各学年	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが A : 80% 以上 B : 75% 以上 C : 70% 以上 D : 70% 未満	生徒・保護者調査 (H28.1 実施) 生徒 A(34.1)+B(43.8)=77.8% 保護者 A(24.4)+B(52.4)=76.8% 達成度：B	後期アンケートでは「配付物を保護者に届けた」生徒の割合が2ポイント(H27.7 80.0%)、「学校情報を知ることができた」保護者の割合が3ポイント(H27.7 80.2%)と若干下がったものの、両者共70%後半の評価であった。メール配信システム導入の効果が現れたものと予想される。(昨年度の達成度：C) 次年度も配付物を保護者へ届ける生徒への指導、メール配信システムの利用を活用して、達成度Aを目指したい。
	情報提供は、文書やHPの更新を通して、きめ細かく発信するとともに、地域や中学校等を対象にした情報発信にも努め、全職員が中学校を訪問し、生徒募集に努める。	総務課 各学年	宝高だより、学年だより等の紙媒体の発行回数が A : 20回以上・35回以上 B : 15回以上・30回未満 C : いずれかがB基準を下回る D : いずれも B基準を下回る	「宝高だより」2号、「宝高タイムズ」5号、「図書だより」4号、「保健だより」8号、「学年だより」1・2年8号、3年9号発行 学校行事のHP更新27回(2/1現在) 達成度：B	紙媒体の発行回数はすでに20回を超えている。そして学校行事を中心としたHP更新のトピック数は67あり、ほぼ全ての行事を記事にすることができた。今後は行事があるごとにタイムリーな更新を目指したい。 次年度も各課・学年等と連携して、学校情報を積極的に地域に発信したい。
学校関係者評価委員会の評価	・配付物が保護者になかなか届かない生徒がいるようだが、メール発信は良い。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・今年度もメール発信を19回行ったが、紙媒体でも届く工夫を考えメール発信と併用する。				